

T O  
S  
B A

UPER  
AQUA  
RIUM

TOBA SUPER AQUARIUM

特集

●新鳥羽水族館

# 環境水槽

鳥羽水族館のるっと一周

森の水辺 (温室)

SAVE OUR NATURE!

カメ達の危機

●千石 正一



●特別報告／ 鳥羽水族館・フィリピン環境天然資源省  
ジュゴン共同研究プロジェクト

「タイタイの小さなシッポ」 副館長 片岡 照男 ———— 01

**特集** ●新鳥羽水族館  
**環境水槽** ———— 02

アメリカ、カナダ動物園水族館協会会議に出席して  
堀田 拓史 ———— 05

鳥羽水族館ぐるっと一周  
ゾーンの人気者  
案内リレー (4) ———— 06

**SAVE OUR NATURE** カメ達の危機  
千石 正一 ———— 10

とっておきの  
ウラ話 あなたの知らないカメの世界  
村上 美貴 ———— 12

伊勢志摩  
海の民俗・民話  
なるほど紳士録 **ボラ**  
森 拓也 ———— 13

鳥羽水族館  
活動レポート (4) **教養セミナー** ———— 14

出来事 &  
クローズアップ 平成4年8月1日～10月31日 ———— 16



●フロントページから  
「ニューギニア アマガエル」

人間の都合だけで、このカエルたちの  
住む環境を破壊することが許される  
のだろうか。

写真：鳥羽水族館／森 拓也  
(館内温室にて撮影)

## 「タイタイの小さなシッポ」

■副館長 片岡照男



干からびて縮んだジュゴンの子供のシッポ

1992年5月、フィリピンのパラワン島のタイタイという町の役所で、第7次ジュゴン共同調査のときに見せられたのは、干からびて縮んだミイラのようなジュゴンの子供の小さなシッポでした。ゴミ捨て場から誰かが拾ってきたのだというのでした。肉を食べべてシッポを捨てたのでしよう。ありがたかっていまし

た。「ブンタゲナ」。そばにいたロミーに私はつぶやいたものでした。「なんて(バカな/あきれた)ことを・・」という意味のタガログ語です。成長したジュゴンの保護の必要性はもちろんですが、特に「保護者」を失った授乳期の子供の偶発的な捕獲や漂着は初期の救急対応が必要であり、これによってかなりジュゴンの資源回復が期待されるものと思われまます。しかしながら東南アジアの離島で資源保護意識を徹底させるのは容易ではありません。タイタイの小さなジュゴンのシッポは象徴的な資料としてプロジェクトが保存することになりました。

1992年7月13日の朝、フィリピン環境天然資源省・野生生物保護局のロミー・トロノ氏から電話がかかりました。彼は鳥羽水族館とフィリピンのジュゴン共同研究プロジェクトのフィリピン側の責任者で、私達とは7年間いっしょに調査研究の仕事を続けてい

一人です。電話は、ブスアング島のコロンという町でジュゴンの子供が捕獲され、漁師がシッポにロープをつないで飼っている、という情報が入ったが、どうすべきか?という相談でした。ジュゴンの生息海域では、台風などで親からはぐれた、いわゆる「孤児(みなしご)ジュゴン」や、魚をとる網や仕掛に子供が迷い込み、そして多くの場合、その肉が市場で売られ、島民たちの一時の空腹を満たすことになるのが、このような若いジュゴンがたどるあわれな運命なのです。

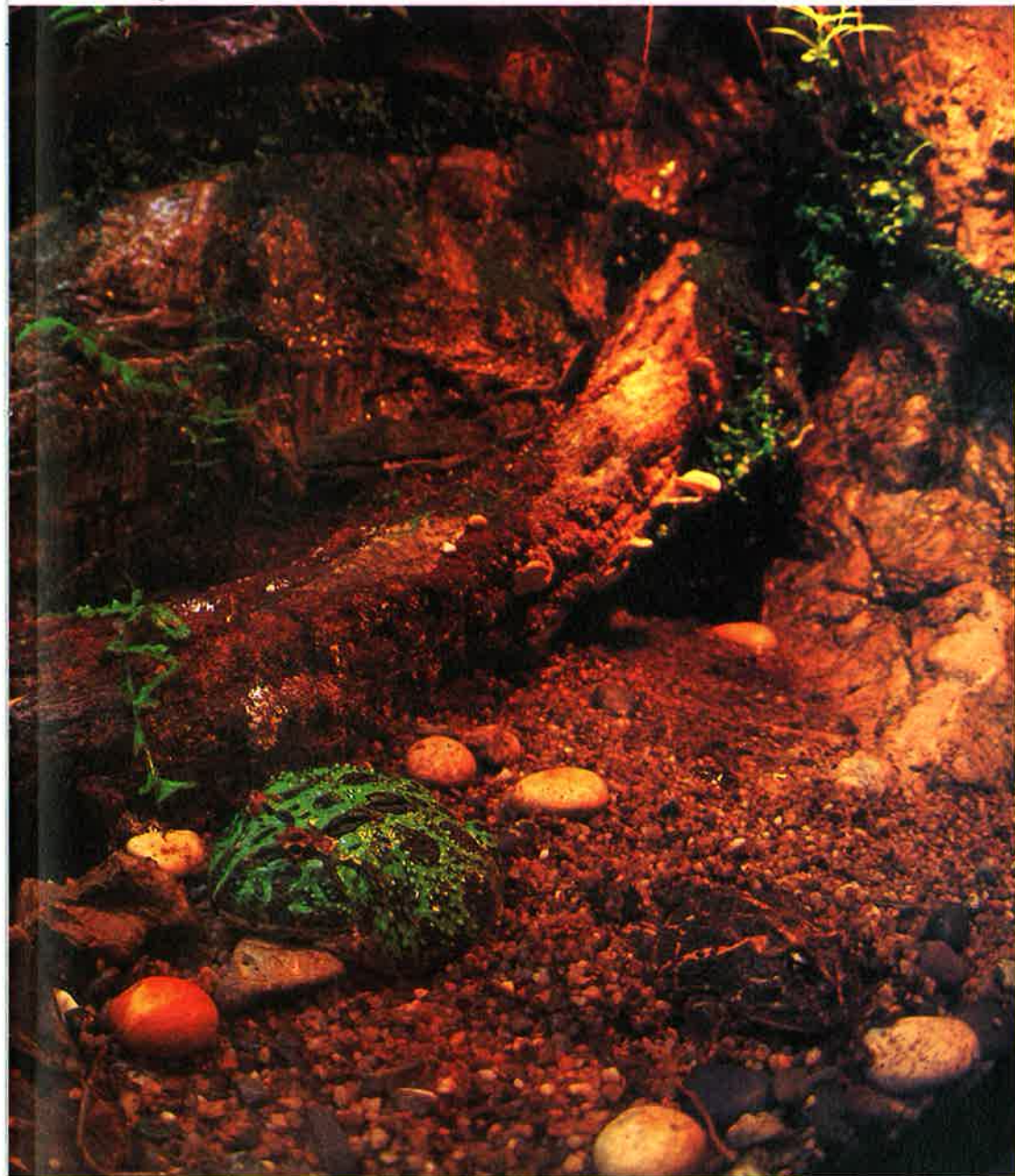
私は、現地にスタッフを急行させ、医療的な応急処置と実情調査をすること、餌料海藻の収集と人工授乳体制を整えることを指示し、私たちが「セレナ」の成功によって開発してきた『孤児ジュゴン』のレスキュー(救急)技術を活用するいい機会であり、フィリピン・チームの最前の努力を期待する旨を伝えて、受話器を置いたのでした。その後の報告によると、捕獲されたのは約一ヶ月前で、ジュゴンはメス、体長126センチ、現在は魚の仲間人が漁師から買いつけて狭いけすでベットのよう

飼育していることが判明しました。もちろんジュゴンは研究目的以外には捕獲も飼育も禁じられている国際保護動物です。フィリピン・チームの努力により、海藻とミルクを与えて健康状態も良好とのことでした。また鳥羽水族館からのスタッフ派遣の要望に添えて、指導のためにジュゴン飼育チームの若井嘉人と企画室の前田広士の両君を8月に派遣しました。

『ジョアンナ』と名付けられたこのジュゴンは、その後順調に生育し、『タイタイのシッポ』よりは一歩前進かと思われましたが、9月中旬から下痢が続き、残念なことに9月24日早朝に短い一生を終わってしまいました。フィリピン大学で病理解剖が行われましたが、まだ死因が特定されたという報告は届いていません。

# 環境水槽

環境水槽ってなんだろう。どうして必要なの…？



上：じっとうづくまるベルツノガエル。ここでは、カエル探しに歓声があがる。

左：巧みに環境が再現された、カエルたちの水槽。



コーラルリーフダイビング水槽



古代の海ゾーンにあるカプトガニの水槽



海獣の王国ゾーン

## 環境水槽とは

「海より広く、海より深く、海より碧い海がある。」をコンセプトに1990年7月にオープンした新鳥羽水族館。ここでは皆様に水族館の生きものを通して地球の環境を見ていただきたいと考えました。そのため新鳥羽水族館の展示水槽は、その生きものたちの住んでいる環境そのままを再現しています。つまり環境をも展示しているのです。これら一つ一つの水槽を私たちは環境水槽とよんでいます。

## なぜ環境を再現することが必要なのか？

なぜ、あの魚の口は細長いのか？なぜ、アシカの体はあんなかたかなの？なぜ、カエルはあんな色をしているのか？と不思議に思うことはたくさんあるはずです。そういつたとき、その魚だけ、そのアシカだけ、そのカエルだけを取り出してじっと見ていたのでは、なんの答えもでてこないでしょう。皆さんの器用に動く手も、じっと見つめているだけでは手の役割はわかりません。普段の生活の中で

使ってこそ、その役割がわかるはず。生きものたちの今の姿は、長い年月をかけその環境に適応し、進化してきました。生きものたちの不思議を理解するためには、適応した環境がとても重要なのです。

## サンゴ礁と魚たちの関係

新鳥羽水族館のコーラルリーフダイビング水槽には、55種650個にもおよび人工のサンゴを配した大サンゴ礁の海に、約250種20000匹もの大小さまざまな魚たちが泳いでいます。ここではサンゴ礁のすばらしさをご覧いただくとともに、サンゴ礁の海で繰り広げられる魚たちの緊張感あふれる暮らしを、皆さんにご覧いただいているのです。弱肉強食の自然界のおきての中で、大きさや性格の違う魚たちを大量に、同時に飼育展示することはたいへん難しいことです。しかしそれを可能にしたのがこの大型のサンゴ礁水槽なのです。つまりサンゴ礁というその環境をも展示することによって、そこに住む魚たちの自然な暮らしが再現できたのです。



スコールを含めたジャングルの1日をご覧いただけるジャングルワールド水槽



新鳥羽水族館建設中のサンゴや擬岩の取り付けの様子

## アシカたちの すばらしい運動能力

アシカやアザラシが群れつどう海獣の王国ゾーンは、アシカの仲間オタリアのふるさと、南米チリのアントファガスタの海岸をモデルに作られています。私たちの目から見たら、ひどく居心地の悪そうな岩場も、造波装置によって起こる波も、外敵から身を守るため、激しく波が打ち寄せる切り立った岩場で暮らしているアシカたちにとってはそれがあたりまえで、波にたわむれ遊ぶ様子が見られます。また、海獣の王国ゾーンはアシカたちの水中の様子が見られるように作られています。水中を優雅に泳ぎまわる様子を見たら、なぜ、アシカやアザラシの体つきが私たちと違うのかおわかりいただけることでしょう。

## カエルたちのかくれんぼ

自分自身がその環境の一部として擬態するカエルたち。雨上がりの庭先で木の葉の上にじつとうずくまったカエルを偶然見つけたとき、その擬態の上手さに驚いたこ

とがあるでしょう。温室のカエルのコーナーはまさにその驚きの連続です。カエルの模様やその姿がいかにすばらしいものか、それを十分に納得していただくために、コケを生やしたり植物を植えたりと、カエルの飼育よりその環境の手入れの方がずっと難しいのが実情です。ただ、今までのカエルのイメージから、このゾーンへ足を踏み入れないお客様がいらつしゃることが、とても残念です。

## 無意識のうちこ

ここにご紹介したのはほんの一部で、新鳥羽水族館では約50の環境水槽をご覧いただくことができます。そして皆さんは知らず知らずのうちに、生きものたちの環境への適応や、進化のプロセスを感じとっているのです。これこそが、水族館の生きものを通して地球環境を見ていただきたいという、私たちの願いから生まれた環境水槽の役割なのです。環境水槽の前で、お客様が無意識に「だからこんな体つきなのね」「これを保護色っていうのね」という言葉がそのことを証明してくれているのではないのでしょうか。

# ●アメリカ・カナダ 動物園水族館協会会議に出席して

鳥羽水族館 学芸員 堀田拓史



立方水母（りっぽうくらげ）のポリプ

American Association of Zoo Park and Aquarium 略してAAZPAアメリカ人はアズパという。これは日本でいう動物園水族館協会のアメリカ版である。このカナダ版がCAZPAで彼等はカズパといっている。今回、AAZPAとCAZPAが共同でインターナショナルの会議をトロントで開くので参加しないかという手紙がピッツバーグ動物園より送られてきたのを知った。私は今までの研究成果を発表したいので行かせて下さりと上司に頼み込んだ。

会議の日程は1992年の9月13〜17日で私の発表は17日である。発表題目は『水槽内に出現した立方水母のポリプとその変態について』であったが、英語での発表が外国人にどれだけ理解されるか不安であった。当館で英会話を教えている外国人に一度発表を聞いてもらったところ、やはりアクセントやイントネーションの違いが随分あることを指摘され、入浴中や仕事中に声を出して暗唱する毎日がつづいた。

さて、会議はトロントのシェラトンホテルの地下1、2階で、発表は3つの部屋と2つの映画館でそれぞれ行われ、総参加者数は1300人という驚くべき数で、日本の会議とは規模が違う。発表の内容は、海産無脊椎動物、海産哺乳類、有袋類、昆虫、アニマルトレーニング、マネージメント、動物園史等に細分されており、興味のある題目を自由に聴けるようになっていた。

9月15日、この日の主な発表は●Invertebrate Culture with Emphasis on Exhibitory. Monterey Bay Aquarium. (展示に重点を置いた無脊椎動物の飼育)  
●Capture Propagation of Marine Mammals in Zoo. Sea World. (動物園での飼育下における海産哺乳類の繁殖)等であった。この日の午後は、主催園館であるメトロ・トロント動物園を見学し、そこでのバーベキューディナーのあと、チャリティオークション及びダンスが夜11時頃までつづいた。

9月16日、この日の発表は動物園史やマネージメントに関するものが多く、最近日本で本を出版されたKen Kawata氏の発表はユニモアに富み、会場を湧かせていた。

9月17日、主な発表は●The Hydroid and Metamorphosis of Cubomedusa. Toba Aquarium. (立方水母のポリプとその変態)  
●Husbandry Aspects of Jellyfish Exhibit. Monterey Bay Aquarium. (クラゲ類展示の管理状況)  
●Behavioral enrichment with Marine Mammals. Sea World. (海産哺乳類の行動性の向上)等で、夕方6時よりカクテルパーティー、7時より夕食と受賞式、9時よりダンスであった。自由奔放で派手好きなアメリカ人の会議らしく、受賞式にしてもジョークが飛びかい会場は熱気で溢れていた。

初めて国外の会議に出席したが、日本人は2人だけで、何度か孤立しそうになった。その時、話しかけてくれた幾人かの人々に感謝したい。その一方で、海外の会議に参加し発表したという満足感が自分の中で残り、是非、若い人達にも挑戦して欲しいと思う。最後に、旅行中手となり足となって助けてくれた同僚の帝釈君に感謝したい。

●鳥羽水族館ぐるっと2周

# ゾーンの人気者案内リレー

vol.4

新鳥羽水族館では環境や生物の生活などをテーマに館内を分け



## 「森の水辺」(温室)

上の写真はぼくたちの住む温室。右側にカメ君たち、その奥にぼくたちの水槽があるんだよ。



ぼくたち両生・爬虫類の仲間が見られる「温室」は、新館の三角形のガラス張りの屋根が目印だよ。本物そっくりにつくられた岩のトンネルを通り抜けると、そこは森の中。この木や草はみんな本物なんだ。

森の中の道を進んで行くと水辺があつて、カメの仲間たちがいるよ。いろいろなカメがいるからよく見てね。

岩のように動かない大きなカメは、ワニガメ。ほら、口の中から舌をヒラヒラと動かして、餌と間違え





ちょっと変わった名の“マタマタ”



日本でもめずらしくなくなったアカミミガメ



大きな口をあけておこっているワニガメ

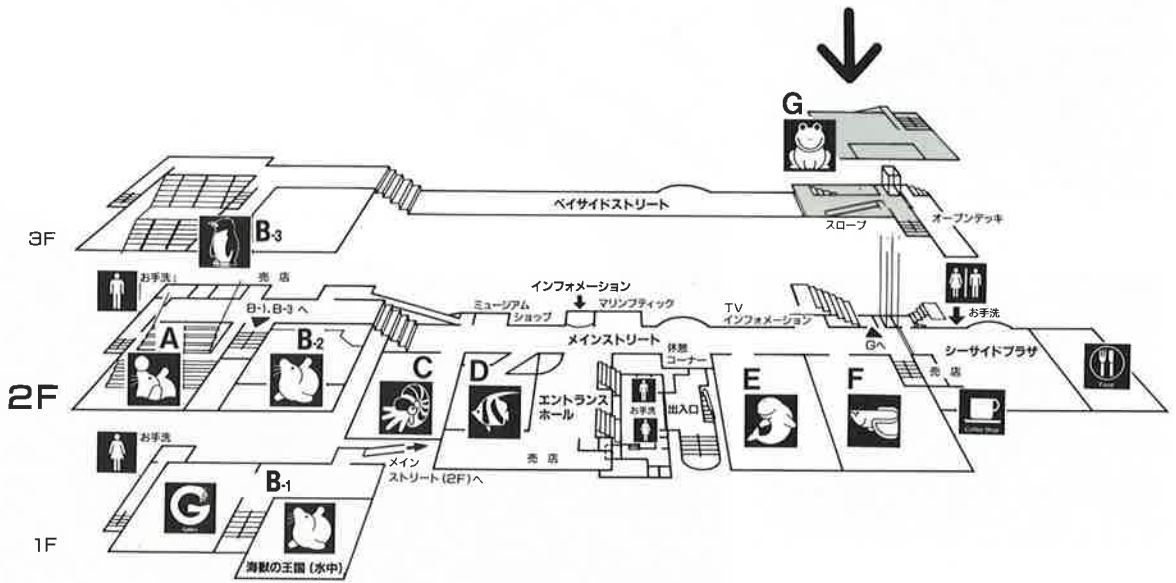


緑や赤、いろいろな色をしたカエルがいるけれど、この体の色は自然にうまく溶け込むためのものなんだ。そうして獲物を待ちぶせしたり、敵に見つからないようにしているんだ。さて、ぼくたちがどこにいろのかわかるかな？

ほら、葉の上にはアカメアマガエルがいるよ。土の中にもぐって目だけを出しているベルツノガエルや体が葉っぱのような形をしたコノハガエルもいるよ。みんな本

て近寄ってくる獲物をねらっているんだよ。すぐおとなしそうに見えるワニガメだけど、怒らせると大変！ けっこう怒りっぽいんだ。その他にも頭が三角の形をしているマタマタがいたり、よく縁日でミドリガメとって売られているアカミミガメが甲らぼしをしているよ。アカミミガメは今では日本でふつうにみかけるようになってしまったけれど、本当は北アメリカがふるさとなんだ。

カメのコーナーを通りすぎると聞こえる聞こえる、“ケロケロ、ケロケロ”カエルたちの鳴き声だ。ここでは、ぼくたちカエルが自然の中でどのようにしていきているのか見てもらうために、生息地の自然の環境をそっくり再現しているんだ。



オオヒキガエル

じっとして、獲物を待っているんだね。



コロラドリバーヒキガエル



ベルツノガエル



コノハガエル



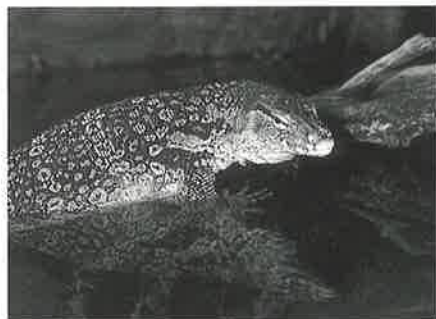
トマトガエル



アメリカアマガエル



アカアマガエル

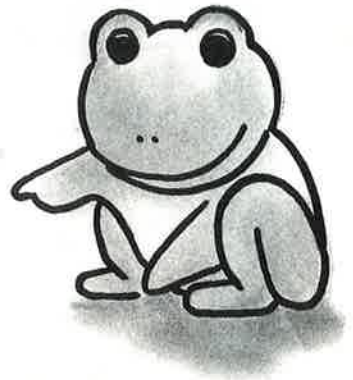


ミズオトカゲ



今度はボクが  
ジャングルに  
連れてってあ  
げましょう。

個性派ばかりの  
温室の仲間たち。  
どこにいるかわかるかな？  
葉っぱのウラや岩かげも  
よくみてね。



当にかくれるのが上手だね。見つけるのが大変だよ。  
女の子がよく「キヤー！」なんておどろいて行くけど、ぼくたちはけっこうおしゃれなんだよ。  
森の水辺にはカメやカエルばかりじゃなくて、トカゲやワニだっているんだ。ほら静かに泳いでいるのはミシシッピワニだよ。これでもまだまだ小さいんだ。大きくなると4メートル以上にもなるんだ。ミズオトカゲも気持ちよさそうに日なたぼっこしているね。  
ぼくたち両生・爬虫類の仲間は、みんな個性派ばかり！それぞれにみんな一生懸命に生きているんだ。そんな温室の森の中へ遊びに来てね。みんな待ってるよ。

# SAVE OUR NATURE



カエルが地球をやさしく抱いているイラストは鳥羽水族館のSAVE OUR NATUREキャンペーンのシンボルマークです。このコラムでは、毎号の各ゾーン紹介に関連した地球環境の話題をご紹介します。

We must be thinking now about THE EARTH.

4

## カメ達の危機

財団法人 自然環境研究センター ● 千石 正一

カメという動物を知らない人種はまずいないでしょう。世界中のどこでも見られる、おなじみの動物です。甲羅のある、ちよつと変わった特徴のため知られており、愛嬌者として親しまれていることが多く、民話や伝説などにもしばしば登場します。カメが棲んでいる環境は多様で、川や池・沼・湖といった水辺を中心として、森林や草原、かなり乾いた砂漠にもいます。小さな島にも大陸にも、けつこう寒い地域にも酷暑の地でも暮らしています。カメは食物も様々で、小さな虫から魚やカエルといった脊椎動物を、生きているものを捕らえて食べるだけでなく、死体を拾ったり、卵をねらったりしています。水に入る大型動物の外部寄生虫をクリーニングするなんてこともあり、糞を食べることもあります。キノコや植物も食べ、葉や花・枝・芽・果実もカメの食物となります。カメはいろいろなところにいる

らしをしているのです。ところが現在、そのカメ達の生存に赤信号が点滅しています。世界中には陸ガメが約40種類、陸水棲のカメが約200種の、合計約240種がおりますが、そのうち約4割が絶滅の危機にあるのです。具体的にいうと、レッドデータブックに掲載されているのが76種、サイテス（いわゆるワシントン条約）の付属書にのっているのが67種で、両者には重複しているものもありまして、合計すると107種が、国際的に保護されるべきカメとなっています。8種いる海ガメも全て絶滅が心配され、対策が講じられています。人種との関係が少し別の部分もあり、話しが拡がりすぎるのでここではとりあげません。別の機会にでもゆずりましょう。

くなっているのです。開発は人間の生活のためにしかたないことも知れませんが、カメ（のみならず他の生物全て）にとって生存できなくなるような環境の変化が、ヒトにとつただけでは都合が良い、なんてことがあるでしょうか。例えば、水質が汚染されてカメが暮らせなくなるようなとき、その水は人間にも害を及ぼすのではないのでしょうか。それより何よりも、非もない生き物達の棲み場をなくし食物を奪う、などということが許されるのでしょうか。相手がカメでなくて他の民族であつたりしたら、絶対に許されるべきことではないのは明白でしょう。相手がヒトでさえなければ何をしてもよいのでしょうか。

直接的にカメを『殺す』ことも人間は行っています。害虫駆除のようなものではなく、カメを利用のために採集するのです。肉を食用にしたり脂肪をとったり、薬用にしたりするのです。こういう利用の仕方は大昔



## 千石 正一

(せんごく しょういち)

1949年東京生まれ。東京農工大学卒業。財団法人自然環境研究センターを設立し、現在その主任研究員。爬虫両生類の研究で、それが分布していない南極大陸を除いて、全ての大陸に調査に出かけた。学術論文から一般書までの幅広い執筆活動や、テレビ出演（野生の王国、わくわく動物ランド）などを通じて、爬虫両生類のすばらしさを世に紹介し続けている。



ピンタゾウガメというこの種は、現在は写真の『ひとりぼっちのジョージ』1個体しか残っていない。彼が死ぬとき、また1種類が絶滅する。

から人類がやってきたことであり、それ自体を否定することはできそうにありません。現在でもカメを含めて、野生動物に由来する蛋白質にかなり頼っている人々は結構多いのです。でもそれが、人々の生活する限定された地域内の、自家消費に限られるならば、うまくバランスがとれていて、野生動物がむやみに減少するという事態は、本来は起こらないことでした。ある地域内の動物を食べつくしてしまえば、それを食べている人々だって飢えてしまうことになりまして、そもそもそんなに食べられやしなかつたでしょう。問題は、商業がそこに関わることでよって生じます。自分達で消費する以上に採集して、売買するようになると、金銭的な欲望に合わせて採集され、その捕獲数に歯止めがなくなることがあります。例えばゾウガメは、遠洋航海する商業目的の船団に『生きたカンヅメ』としてむやみに狩られて、中には絶滅した種類まで生じてし

まいりました。

■ 昨今ではペットとしての商取引もカメの減少に拍車をかけています。確かにカメは可愛いですし、それを愛玩する心が誤っているとはいえませんが、しかし、もう少しなくても生活できる、いわばぜいたくのために種の生命を危険にさらす権利はないでしょう。本当に愛する心があるならば、カメ達が野生で暮らしている姿をこそ愛でるべきだと思います。

■ そういった商取引はサイトのテストによって規制されています。陸ガメは全てサイテスの付属書に揚げられています。石を拾うようなもので、見つかったらまず捕らえられてしまう陸ガメが優先的に守られるべきなのは当然でしょう。水棲のカメはそれに比べれば、まだ直接的捕獲から逃げられ得ます。

■ カメには減少する固有の要因もあります。繁殖の効率が悪いのです。あまり多

■ 数の卵を生みませんし、卵から親になるまで時間がかかります。ゆっくりと個体を再生産している種に、急激な採集の圧力をかければ、減るのは当然です。たくさんさんの卵を短期間にくりかえし産み、そのほとんどが自然状態ではもともと死滅するような種なら、一部を人間が利用してもダメージは大きくなりませんし、回復が速いために、一度減少しても保護を加えてやれば割に容易に回復します。カメはその逆の、減らされることにもろいタイプの繁殖様式を持っているのです。

■ 人類が出現するはるか昔からマイペースで生きてきたカメ達。その2億年の生命の歴史を、人間が終わらすのでしょうか。そんなことがあつてはなりません。いつまでも人間と共に、その愛すべき姿を見せて欲しいものです。

# あなたの知らないカメの世界

■飼育研究部 村上 美貴■

「このカメ達、動かないよ……」  
 「半分くらいは作り物だよね。」  
 これはカメコーナーの前でよく聞かれる言葉です。皆さん、作り物だなんてとんでもない。カメ達は、みんな元気に生きていますよ。でもピクリとも動かないカメっていますよ。私も「こいつ、もしかしして……」と棒でつついてみると、すいすい泳ぎ出して「ホッ」としたことが何度かありました。でもカメ達が活発になるときもあるんですよ。現在週2回、餌を与えています。餌の日は、朝からカメの目が、ギラギラして見えるのは私の気のせいでしょうか。そして餌の時間、部屋へ入るとカメ達は一斉に私の足元へ集まってきました。餌にありつこうとあせりまくり私の長靴にかみつくカメ、勢いあまって餌箱へ上がりこむカメ、仲間の上を乗り越えて突進してくるカメ。いろんな性格が見えておもしろいですよ。

カメの餌は、アジのぶつ切り、

動物用ソーセージ、バナナなどです。気の弱いカメは、他のカメに餌を取られてしまうので、まわりを木や石でガードしてから与えたりします。ソーセージは食べるけどバナナは嫌い、バナナは食べるけどアジは嫌い。みんな結構わがままです。そんなカメ達の中でも、私のお気に入りには「セマルハコガメ」です。このカメは、中国東南部、台湾、日本では石垣島、西表島に住んでいます。雑食性で、なんでも食べるはずなのですが、なぜかバナナしか食べないのです。しかも人が見ると食べない！物音がするとすぐ逃げてしまう！恥ずかしがりやの上に神経質という、手のかかるカメでした。でも何カ月か経って、やっと手からバナナを食べてくれたときは、うれしくて、うれしくて、思わず涙してしまいました。でもこの子は気まぐれで、差し出したバナナを無視して木のかげに隠れることもありま

す。「今日は食べないのかな！」

と心配していると、そのそはいい出して来るんです。なんと、口のまわりにバナナをいっぱいくっつけて！私が見ていないところ食べていたのです。こんな悔しい思いをしたことも二度や三度ではありませんでした。ある時、餌の日でもないのにセマルの口がモグモグしている？つかまえて顔を見ると口から足が生えている……？もつとよく見ると、それはゴキブリの足！私の大好きなセマルが、私の嫌いなゴキブリを食べている！思わず手に乗せたセマルを落してしまふところでした。いくら雑食とは言え、ゴキブリだけはやめて欲しかった。

そんなこんなで、もの静かに見えるカメ達にも、いくつものドラマがあるのです。時間のある方は、腰をすえてじっくりと観察してみてくださいいかがですか。カメ達もきつとあなたを待っていることでしょう。



お気に入りのセマルハコガメ

# ボラ

■学芸員 森 拓也■

その昔、恵比須様が鯛釣りをしていたら間違つてボラがかかつてきたそうです。すると恵比須様は大層腹をお立てになり、ボラの頭をポカリ！とお叩きになりました。それからなんですつて。ボラの頭があんなに平たくなつたのは…。

タイを小脇に抱え、釣竿を肩にかついだおなじみ恵比須様。ここに顔の見本のような恵比須様も、この日は余程ムシの居所が悪かつたのでしょね。でも、頭を叩かれる前のボラってどんな姿をしていたのか、チョット気になります。ところで、ボラといえは成長するにつれて名前が変わってゆく、いわゆる「出世魚」のひとつ。ハク(体が銀箔のように輝いているから?)に始まってイナッコ↓イナ↓ボラ↓トドと出世しますが、イナッコをオボコ(処女のこと。

または小さな銚の意とする説もある)或はスバシリ(洲走り、潮の引いた砂地の浅場をすばしこく泳ぐ若魚を指す)と呼ぶ地方もあるようです。

江戸時代に日本橋の魚河岸のイキな若い衆の間で流行つたという鬻の形がイナの背中に似ていることから生まれた“イナセ”や、行き着くところまで行つたという意味で使われる“トドのつまり”も、このボラの名前に由来しています。言い換えれば、如何に昔からボラが庶民とかかわつてきたかという証拠でもあるでしょう。

ボラの仲間は全世界で約1000種、日本近海では14種が知られていますが、中でも本家本元のボラは大変ポピュラーな魚です。それほどばかりか伊勢志摩地方では、昔からボラはナヨシ(名吉)と呼ばれ、

色々な行事には欠かせない魚でした。各地に残る弓祭の神事では、弓引きの後に出来る膳に必ずボラの姿がありますし、鳥羽市の国崎では古式にのつとつて二匹のボラを調理し、神様におそなえする真魚箸(まなばし)の神事が今も受け継がれています。また、志摩郡浜島町の宇気比神社の旧正月行事にも同じような真魚箸の神事が残っていますが、これもボラ二匹と定められています。

最後になりましたが、ボラについてのおもしろい格言があつたのでご紹介しておきましょう。「高野の谷に鱈の相場」高野山の谷もボラの相場もどこまで上がつたりさがつたりするのか解らないというところから、訳が解らないことを指して言うそうです。



# 教養セミナー

レポーター●酒井 里絵子

水族館を訪れた後、またはこれから水族館を訪れるお客様は海の生きものに興味しんしんです。そういった修学旅行の子供たちや団体のお客様に、水族館のスタッフが館内のレクチャーホールや、ときにはその宿泊先の旅館に向いて海の生きものや水族館のことを楽しくお話する教養セミナー。

修学旅行シーズンには毎日のように行われる教養セミナーの様子をレポートし、子供たちからのお手紙もご紹介します。



講師や講演内容を紹介したパンフレット

**水** 水族館のスタッフは海の生きものたちと接し、多くの知識や驚きを得ることが出来ます。また、調査や研究を行う上で普段はなかなか見られない光景にも、しばしば出会うこともあります。鳥羽水族館ではそういったスタッフひとりひとりが持っている貴重な体験や感動、知識の数々を水族館に来てくださったお客様にじかにお伝えしていこうと、中村館長の発案で19

81年10月からこの教養セミナーは始まりました。中村館長やベテランの飼育スタッフはもちろんのこと、若い飼育スタッフも講師として一生懸命お客様にお話をします。しかし、いくら貴重な内容でも言葉だけではうまく伝えることは難しいものです。知識の押しつけになったのではなんの意味もありません。そこで、水族館のビデオ映像班が独自にわかりやすくつくった教材ビデオ『ちよちゃんの1日飼育係』、『ザリガニのくらし』などを上映したり、さまざまなスライドを紹介したりという工夫を凝らしながら話は進められていきます。今回は貝にとっても詳しい松本先生の教養セミナーにいつしよに行ってみました。

**今** 日の教養セミナーの会場は水族館近くの旅館。営業部のスタッフが運転する車で会場に向かいます。松本先生のバッグには子供たちに見てもらいための貝がたくさん入っています。さらに会場近くの魚屋さんによってサザエを二個買い、さあこれで準備がととのった様子です。今日のお客様は、愛知から修学旅行で鳥羽を訪れた小学生200人です。

「明日の水族館の見学をみんな楽しみにしているんです。」と引率の先生。最初はざわざわしていた子供たちも、教員を退職してから鳥羽水族館に勤務するようになった松本先生の、こどもたちをひきつけるはなしぶりにみるみる熱中していきます。「貝は1年でのどのくらい大きくなるか知っていますか?」「ラッコの食べている貝の名前は?」と興味深い話が続きます。「このサザエのオスとメスはどやあってわかりますか?」との質問に首をかしげる子供たち。松本先生はくる途中の魚屋さんで買ったサザエ二個から中身を取り出して「ほら、この二つを見比べてごらん」と、できるだけ多くの子供たちに近くで見せてあげようと、会場をとことろ狭しと歩きまわります。子供たちは口々





葉草にもくわしい松本先生の講演は大人にも大好評



こうして、できるだけ多くの子供たちに貝を見せて歩く松本先生。

に「へえ〜」「ふう〜ん」とうなずき納得していません。子供たちだけではありません。引率の先生たちもたいへん興味深げです。こうして今回の一時間というセミナーの時間は、あつと言う間に過ぎていきました。セミナーの後「一人でも貝に興味を持ってくれる子供ができたらいいのになあー」と思っ毎回やっているんだよ」という松本先生の言葉がとても印象的でした。

## 教

養セミナーには、幾日かたつてから、お礼の手紙や質問、感想などが寄せられてきます。時にはこのような熱烈なお手紙もあります。

「この前は、楽しいお話がありました。ありがとうございます。ぼくは森先生のお話をきいてからクジラやイルカに興味を持ちました。ぼくは、今、クジラやイルカにねっちゅうし図鑑などで、クジラをしらべています。ぼくはしょうらい森先生のようにになりたいです。そのゆめ

## 水

がつぶれないようにぼくはもっと勉強し、ちしきをつけ、いつか森先生みたいになる！必ずなります。」この他にも「ぼくも水族館で働きたいと思いました。今からどうすればいいか教えて下さい。」という小学生からのお手紙など嬉しくお手紙がたくさん送られてきます。こういったお手紙からも教養セミナーがどんなに興味深いものであるかわかりいただけることと思えます。

族館が水槽で泳ぐ魚たちを見せるだけの場から、その海の生きものたちの住んでいる環境を再現し、そこで暮らす様子からその生態を理解しさらに関心を高める場に変化してきた今、水族館の大きな役割の一つとしてこれからも教養セミナーは続けられていきます。毎年行われる修学旅行や会社の旅行プランに教養セミナーの時間を加えてみませんか。好奇心旺盛な皆様には、きつと何か新しい発見があるはずですよ。

## 教養セミナーのお申し込みについて

●鳥羽水族館 営業第一部  
電話 0599・25・2555 (代)

教養セミナーのご利用は、25名様以上の団体で当館をご観覧頂くお客様に限らせていただいております。準備の都合上、事前のご予約を必要といたします。ご案内のパンフレットなどもご用意いたしておりますので、お気軽にご連絡下さい。

# 出来事

■平成4年8月1日～10月31日

- 8月 1日●メジロザメ(5)入館  
 6日●バイカルアザラシ健康診断  
 16日●モリイシガメ(5)孵化  
 ケショウフグ(1)入館  
 18日●少年海洋教室  
 川コース開催(20日まで)  
 20日●保護されたジュゴン飼育指導のためフィリピンへスタッフ2名出発
- 9月 1日★THE SEA-BLUE COSMOS  
 海の宇宙 刊行  
 8日★シラナミガイ繁殖  
 10日●当館にて「水族館設備担当者情報交換会」開催(11日まで)  
 12日●海のホール定期コンサート開催。  
 ショーロクラブを迎えて  
 19日★ペンギンの名前  
 「うづき」と「さくら」に決定
- 10月 5日●きんさん・ぎんさんご招待  
 6日●曙関、一日館長  
 17日●オスカー(水槽内で)産卵  
 18日★アシカショー新人トレーナーデビュー  
 30日★外国語版パンフレット作成

★CLOSE UP★

## 新刊紹介



水中写真家として活躍中の伊藤勝敏氏が「THE SEA-BLUE COSMOS」

「海の宇宙」を朝日新聞社より出版されました。滅多にお目にかかれない生物たちの色鮮やかな姿や、魚の意外な表情がわかる写真が多数紹介されています。また、鳥羽水族館・中村幸昭館長によるユニークな解説が加わり、海の世界をさらに楽しむことができます。4,500円(消費税込)

## シラナミガイ繁殖

コーラルリーフダイビングゾーンに展示しているシ

ラナミガイの仲間のシラナミガイが、放卵・放精しました。9月8日の朝のことです。水槽の水が乳白色になる程、多量に放出していました。この貝は、造礁サンゴと同じように共生藻をもっているため、日光のよくあたる浅く暖かい海に生息しています。自然界では、夏の台風の時などに一斉に放卵と放精が行われます。そして放出された卵と精子は水中で受精して、0・15ミリ程の幼生になります。一カ月で、約2倍に成長

しました。親と同じ大きさになるには、5年以上かかるそうです。



## ペンギンの名前決定

平成4年4月25日に生まれたペンギンのヒナの名前が「うづき」と「さくら」に決まりました。この名前は一般公募で決まったもので、4月生まれにちなみにかわいい名前に飼育スタッフみんな喜んでいました。現在、「うづき」「さくら」とも元気にスクスク成長して、体の大きさは親ペンギンと変わらない程です。羽の模様はまた親とは違い、



中村館長ときんさん、ぎんさん

■編集後記■

よく両生・爬虫類には表情がないなんてことを言いますが、それは大間違い！結構、表情豊かなんですよ。びっくりして目を丸くしたり、ねむくてボーッとしたりしています。でも、ニヤッと笑っているのは見たことがありません。(高村)

創刊から1年。年4回のTSAの発行に追われながら季節が過ぎた、思い出深い1年になりました。年を重ねるごとに、TSAも私も大きく成長していきたいと思っています。(酒井)

TOBA SUPER AQUARIUM  
1992 冬 第4号

発行人／中村幸昭

発行所／鳥羽水族館  
〒517鳥羽市鳥羽3-3-6  
TEL 0599-25-2555

編集長／中村元

編集委員／酒井里絵子  
高村直人

レイアウト／(有)スクープ

印刷／(株)アイブレン

© 本誌の掲載記事、写真等の無断複写・複製転載を禁じます。

(本誌は再生紙を使用しています)



薄い灰色をしています。「うづき」は頭に、「さくら」は尾に目印となるクセ毛があるので、みなさんにも見分けがつくと思います。ぜひ、会いに来て下さいね。

新人トレーナー

デビュー

8月25日。この日、アシカ班に一人の新人飼育スタッフが配属されました。カリフォルニアアシカのレンドとブルグと一緒に訓練を開始したのは、飯坂博明君(18才)。大きな声では言えませんが、訓練中、プールに落ちたボールを拾おうとしてアシカたちに背を向けたとたん、レンドがツン！押された彼はそのままドボンとプールに直行してしまったこともありまして。しかし、そんな彼も10月18日、とうとうシヨードデビューすることができまし

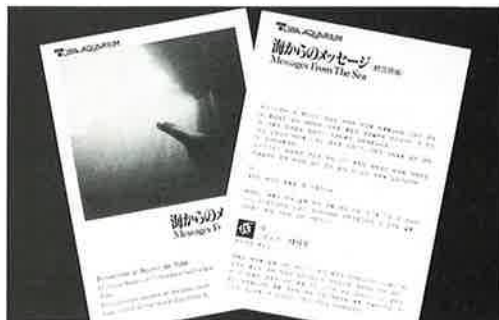
た。初めてのステージで頭の中は真っ白、アナウンスも聞こえず、ただただ種目をこなすのに精一杯だったそうですが無事に終了。控室に戻って一息ついた時には涙が止まらなかったそうです。



パンフレットの国際化

鳥羽水族館の無料配布資料は、一般向けのリーフレット(B5版)と旅行代理店向けのパンフレット(A4三ツ折版)、そして学校や外国人向けの「海からのメッセージ」があります。日本語と英語が併記されているだけでした。そこで、新館オープン以来増加している海外からの視察や外国人観光客に対応するため、このほど韓国語版とスペイン語版を制作しました。この後もフランス語版、ブラジル語版、中国語版など観光客の国際化に合わせて種

類を増やしていく予定です。



# 鳥羽水族館 スケジュール (1992年10月31日現在)

<p>1月</p> 	<p>12月22日～1月26日 ●魚のアート展【M】</p> <p>12月26日～1月22日 ●吉野雄輔 水中写真展【P】</p> <p>1月27日～3月9日 ●かわいい動物の手作り陶芸展【M】</p>	<p>1月16日 ●海のホール定期コンサート DOU (道下和彦が率いるドラムレスのバンド) を迎えて</p> <p>■三重動物学会主催「野鳥観察会」</p>
<p>2月</p> 	<p>1月23日～2月19日 ●中野英一展【P】</p>  <p>吉野雄輔展</p>	<p>2月27日～3月3日 ●訪問/フィリピン・エルニド親善使節団 中村館長を団長に当館のメスのジュゴン、「セレナ」のふるさとへ</p> 
<p>3月</p> 	<p>3月10日～4月19日 ●魚の陶芸展【M】</p>  <p>魚のアート展</p>	<p>■三重動物学会主催「施設見学会」</p> <p>3月13日 ●海のホール定期コンサート 神谷満実子 and ロイヤルナイツを迎えて</p>

【M】：マリンアートギャラリー 【P】：ピュアアートギャラリー ■三重動物学会の詳細については 鳥羽水族館内・事務局まで

## クイズ&プレゼント

Q：平成4年4月に鳥羽水族館で生まれたペンギン2羽の名前は何と何に決定したでしょう？



正解者の中から抽選で鳥羽水族館オリジナルカレンダーを5名様にプレゼントします。

ハガキにクイズの答え、住所、氏名、感想をご記入の上ご応募下さい。

●〆切は1月31日です。

あて先：〒517三重県鳥羽市鳥羽3-3-6  
鳥羽水族館 企画室「T.S.A.」編集係

秋号当選者の皆さん (鳥羽水族館チケット)

奥田貴子さん (三重県) ・谷口加代子さん (三重県)  
加茂正男さん (三重県) ・松本光司さん (奈良県)  
二宮香澄さん (愛媛県) 以上5名様でした。



## ■定期購読申し込み方法■

お申し込み時より1年分の送料として175円切手を4枚、左記あて先までお送りください。  
(住所・氏名・電話番号をお忘れなく！)